

大会後の運営管理に関する検討ワーキングチーム（第 10 回）概要

日 時 平成 29 年 8 月 25 日（金） 11 時 00 分～ 11 時 45 分

会 場 文部科学省 16F3 会議室

出席者 文部科学省 水落副大臣（座長）

スポーツ庁 今里次長（事務局長）

東 京 都 鈴木オリンピック・パラリンピック準備局次長

<議題：日本サッカー協会からのヒアリング>

[日本サッカー協会の発言内容]

- 球技専用という方向性はありがたく思っている。東京大会のレガシーとして、スタジアムの活性化や収益向上に協力したいと考えており、日本代表戦の数試合、天皇杯準決勝・決勝、Jリーグスーパーカップ、Jリーグカップ戦決勝、全日本大学サッカー決勝、全日本大学女子サッカー決勝、皇后杯決勝、全日本高等学校サッカー準決勝・決勝での利用を予定している。ただし、料金によって利用できないこともある。また、キッズサッカーや女子サッカーのフェスティバル、JFA フットボールデーフェスティバルでの利用を予定している。Jリーグのリーグ戦については言及できない。
- 要望として、観客席は、ピッチが見やすく傾斜角があり、音響を含め臨場感があることが必要。また、W杯招致の際、8万席に対応できるスタジアムは新国立競技場のみであり、工事をしてやれる余地は残して欲しい。2050年までの招致を掲げている。
- また、ホスピタリティについて、ボックス席を多く作って毎日貸出し、レストランがあり、ビジネスにも利用され、人がいつも来る場所にして欲しい。芝生については、最良のコンディションを望むが、毎回の張替えは費用負担が大きい。ハイブリッド芝や補光設備の技術も進歩しているが、やってみないと分からない。
- コンセッションへの参画については、レガシーとして応分の負担をしたいが、本来業務に支障が生じない範囲で、どのような事業者が参画するか、どのような収支の見込みか、どのくらい負担があるかなどを分析し、サッカー競技の発展と日本代表の強化に繋がるか検討したい。

<その他>

- 日本ラグビーフットボール協会からのヒアリングの概要について、参考資料 2 に基づき事務局から説明した。